

第4回 奈良県立高等学校入学者選抜検討委員会 議事要録

1 日時 令和4年6月2日(木) 10時～12時

2 場所 奈良県庁 東棟2階 教育委員室

3 出席者(敬称略)

京都大学特任教授	小松 郁夫
奈良教育大学教授	赤沢 早人
県議会文教くらし委員会委員長	森山 賀文
県都市教育長協議会会長	上田 陽一
県町村教委長会顧問	小谷 隆男
児童生徒保護者代表	春山 真美
県高等学校長協会会長	栢木 正樹
県中学校長会会長	熨斗 慎司
県小学校長会会長	鍵本 光弘

県教育委員会教育長 吉田 育弘
他、県教育委員会事務局職員 5名
(※ 委員欠席なし)

4 概要

(1)開会

○県教育委員会教育長<あいさつ>

・特色選抜という形と一般選抜という形で、この2つの枠組みを中心に入学者選抜を実施してきたが、できれば入試の特色を維持しながら一本化するということができないかご検討いただいている。

・例えば中学1年生の成績を調査書に入れることになると、実際に実施するのは3年後になる。3年後を考えながら、前倒しでできるものがあればやっていきたいと思っているので、本日も忌憚ない意見を願いたい。

(2)協議

○事務局より<資料に基づき説明>

○委員より<主な意見>

・特色選抜で、たまたま空いたところに出願することを短い時間で決めるのは厳しいという声がある。行きたい気持ちを保証するのであれば、始めから第1、第2と行きたいところを2つ書かせる。ただしそうすると、おそらく出願が集中すると思う。

・生徒が専門学科を選びにくい現状がある。とにかく普通科という親も子どもも多い。

・外国語の能力について、読む、書くだけでなく話す力がまさに活用する力になると思う。

・ICTを使った検査に関しては、学校現場やそれぞれの地域で活用に格差があると思っている。公平性という点で、各学校の取組性がしっかりしないと入試に即つなげることは難しいだろう。

・入試内容の変更については、小学校の段階で、早め早めの情報公開を進めていかなけれ

ばならない。

・思考・判断・表現する力をどのように高校が把握するのかといえば、調査書になるだろうと思う。主体的に学習に取り組む態度を高等学校で評価の対象とするのであれば、面接等でしかあり得ないのではないか。

・調査書について、1、2年は、「思考力・判断力・表現力等」と「主体的に学ぶ力」で調査書を見るということによいのではないか。

・今、奈良県では、2、3年の調査書が採用されている。多くの都道府県で1年生を入れているのには理由があると思う。

・寮の存在というのは、今後いろんな意味で大切になってくるのではないか。奈良県北部の生徒が南部の高校を受験したいとき、現在、山間部の生徒を対象としている寮が使用できるようにしてもらえれば、南部の学校の生徒が増えることにつながるのではないか。

・地域推薦については、生徒・保護者が、一部の高校にステイタスを感じている状況ではトラブルが起こるのではないかという意見も出ているので、慎重に検討していただきたい。

・高校としてはスクールポリシーが大切で、それにあった生徒を受け入れる。入試制度を考えていく上で公平性を考えると、中学校側の評価が公平性を担保できているのかが問題となる。高校側が抱えている課題と入試の課題は相対するところがある。公平性の担保や時間的なものを考えると非常に課題が大きい。

・「多様な能力」「多様性」と、論点に挙げられている「多面性」というのは、似た言葉だが、少し視点が違うと思う。一発試験に弱い、体調面で弱い、ということからいろんな試験を用意する、というのは「多様性」の問題だと思うが、3つの観点をバランスよく評価の対象にする、というのは「多面性」かと思う。そこを分けて考える必要がある。

○委員長まとめ

・(今年度の入試については) 中学3年生や保護者は初めてなので、あまり複雑になると大変なことになるため、できるだけわかりやすくクリアな形で、できるだけ早く提案されるとよい。

・生徒の進路選択をしっかりと保証する。高等学校に対しても、行きたいと思う生徒に来てもらえる学校にする、そのための選抜方法を議論したい。

・教科によっては1年生しか習わない領域もあり、1年生の時は成績が良かったが、2年生や3年生になると成績が悪くなってしまった生徒もいるのではないか。比率は同率でなくてもよいが、3年間の指導を受け止める評価の活用があってもよいのではないか。

・高等学校入学者選抜に関しては、もちろん高等学校教育全般の在り方に及ぶのはもちろんだが、例えば中学1年生の表現力や主体的に学ぶ姿勢を調査書に入れる、となったときには、明らかに中学校教育全般や中学校の教え方全てに関わってくる問題になってくる。主体的に学ぶ、協働的な学習を進めてほしいと思うけれど、もし入試の視点でそれが入れれば、もっと一生懸命に中学校が取り組むのではないか。

○事務局より<次回以降のテーマの提案>

論点整理の骨子について

(3)閉会

○事務局より

・今後について事務連絡